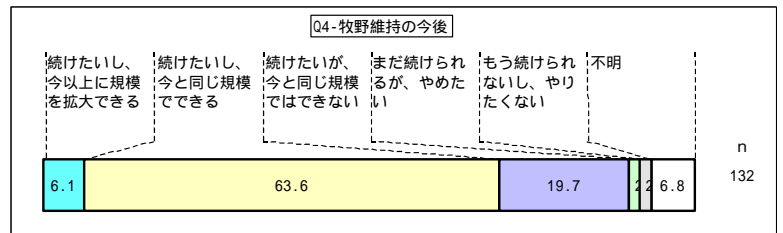


## 2 - 4 平成 15 年度牧野組合調査 (要約)

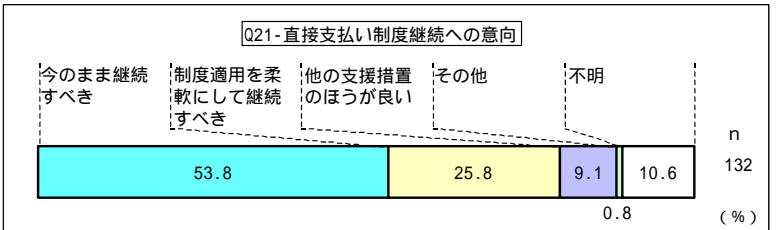
### 牧野の維持管理について

維持管理を続けている理由は、「農畜産業に欠かせないからが最大  
今後の維持管理について、大半に継続意向があるが、今と同規模ではできないとする組合が 20% ある



### 牧野・畜産の活性化への意向

畜産振興で特に重要と考える施策として、「子牛価格の安定」を求める回答が圧倒的に多く(77%)、次いで「補助事業の強化」「後継者対策」  
半数以上が中山間地等直接支払い制度による助成を受け、大半が継続を希望

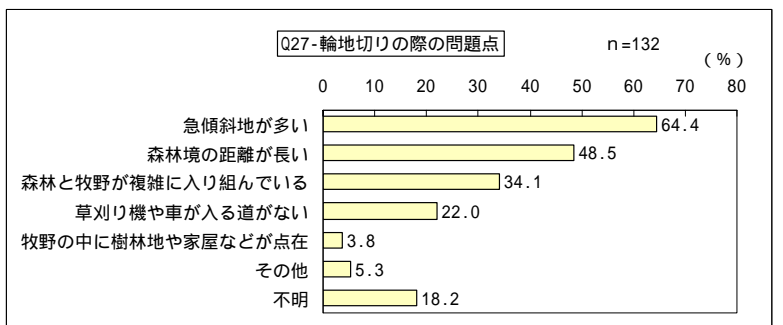


3 ~ 4 割の組合が作業請負集団への委託を検討、委託したい作業は「牧柵設置・修理」(14%)、次いで「採草」「輪地切り」「野焼き」の順

### 輪地切り省力化に関する意向

野焼き・輪地切りは入会権者全員、または地区単位で行うケースが多いが、輪地切りは有畜農家だけで行う組合が比較的多い

輪地切り実施上の問題点としては、急傾斜地が多いこと、森林境の距離や形状が問題



省力化技術のうち、使える可能性が高いのは「管理道を兼ねた恒久輪地整理」「グリーンベルトによる防火帯」、次いで「モーター輪地切り」は 24% の組合で使える可能性ありとしている

